

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果

## 1. 調査の概要

【調査の目的】義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【実施日】 令和7年4月17日（木）

【対象学年】 中学3年生

【調査内容】 ①教科に関する調査（国語・数学・理科）

②質問調査

○今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

## 2. 学力調査（教科に関する調査）結果より

### 〔国語〕

正答率を25%刻みで、4層（上位からABCDの順）に分けたとき、A層は13人、B層は68人、C層は45人、D層は25人であった。その中でも、B層の各設問の正答率は概ね府平均を上回っていたことから、AB層の約半数の生徒は一定の実力があることがわかる。一方、CD層の各問い合わせに対する正答率をみたとき、C層の正答率が1桁だった問題数は4問であった。また、D層については7問であった。D層では、そのうちの4問が正答率0%であり、AB層とCD層の二極化が顕著に表れている。

無解答率については、14問中、11問目までは1桁%だったが、12問目以降は20%～40%であった。これは11問目までに記述式が2問あり、そこで時間を要しことが影響したと考えられる。しかし、苦手意識のある生徒も終盤まで粘り強く挑戦したともいえる。

「読むこと」「書くこと」に関する記述式問題の正答率で差がついていることから、知識量の差ではなく、「思考をことばで表す力の差」が二極化を生んでいる可能性が高い。

「読むこと」についての対策としては「どこでつまずくか」を明確にするために、文章構造（接続語・指示語・要約など）を分析する活動を取り入れ、読むプロセスを可視化していきたい。

「書くこと」については、単純な長文記述問題に取り組むのではなく、「キーワード抽出→文づくり→段落づくり」といった段階的な記述練習を取り入れたい。

また、アンケートの「読書が好きか」という質問に対する回答と結果を分析したところ、「読書が好き」と答えた生徒よりも、「どちらかといえば好き」と答えた生徒のほうが、正答率が高い傾向がみられた。これは、単に好きな本を読む生徒よりも、読む目的をもって内容を理解しようとする生徒のほうが、読解力や記述力を身につけていることを示していると考えられる。読書活動を「好き」で終わらせず、学びにつながる読みへと発展させることが今後の課題である。

## [ 数 学 ]

本校と全国・大阪府の問題別の平均正答率を比較すると、外角を答える問題以外、平均を下回る結果となつた。本校と大阪府の正答率を比較すると、本校の例年の平均と同等、もしくは低い値となつた。

正答数の分布では、大阪府・全国に比べると13～15問の人数が大幅に少なく、1～3問の人数が多くなつており、上位層が少なく、下位層の割合が高いことがわかる。下位層の引き上げと上位層の強化が求められる。

今回は、外角を扱つた問題と、連続する三つの3の倍数の和についての問題の正答率が、大阪府・全国の正答率に迫る結果となつておつた。いずれの問題も授業やテストで扱つた問題であり、既視感があつたからだと思われる。繰り返し取り組むことで理解が深まると考えられるため、様々な形式の問題をバランスよく取り入れていきたい。

無回答率については、説明問題や証明問題が高くなつておる傾向にあり、苦手意識があることを感じる。説明、証明問題に関しては、難易度の低い問題を繰り返し行つことで、「できる」という体験を増やして苦手意識を薄めていきたい。

また、アンケートの「数学の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対する回答と結果を分析したところ、「当てはまる」と答えた生徒の正答率は48.9%で、「当てはまらない」と答えた生徒の正答率は20.0%であった。これは、あきらめずに取り組んでいる生徒には、一定の成果がでていることを示していると考えられる。生徒の「できる」という体験を大切にし、いかにあきらめさせないかを意識して授業をおこなつていく。

## [ 理 科 ]

※ IRT バンド…問題の難易度を加味してテストの結果を5段階で示したもの (5<高い>…1<低い>)

本校のIRTバンドごとの人数の分布をみてみると、5(2人)、4(19人)、3(59人)、2(41人)、1(15人)と上位層の割合が低い。それぞれの設問の正答率についてIRTバンドごとに分析すると、府平均を大きく下回つておる設問に対してもIRTバンドが3までの生徒は府平均と同等の正答率である。このことから、ある一定層の学力は定着していることがわかる。また、府平均を超えておる設問はIRTバンドが2の生徒の正答率が他の問題より府平均に近いことから、IRTバンドが2の層の生徒の学力を引き上げることが全体の学力向上につながると考えられる。

それぞれの設問の内容に注目すると、知識・技能を問う問題については、府平均以上もしくは府平均に迫る正答率の設問が4問中3問であった。思考・判断・表現を問う問題については、府平均以上もしくは府平均に迫る正答率の設問が6問中3問であった。授業内で、自分で考え記述する場面を増やしたことが、思考・判断・表現の問題や記述問題に対して効果があつたのではないかと考える。「～のときどのようないきになるか。」という思考や、「なぜそうなるのか。」という問題の正答率が良かった一方で、「～になることを確かめるための方法」や「～を確かめるためにどのような結果が出るよいか」という問い合わせの正答率が非常に低いという結果が出た。課題解決のための条件設定などを科学的に思考し、実験を考えるような授業を行うことで力がつくのではないかと考える。

全教科において、「知識・技能」の観点と比較し「思考・判断・表現」の観点を問う問題の正答率が低い結果となりました。今年度、河原城中学校では『読解力、表現力を育成し、学力を向上させる』ことを学力向上についての方針とし、学校全体で取り組んでおります。読解力、表現力を育成する活動を行い、「思考・判断・表現」の正答率の改善に繋がればと考えます。

また、教科によっては勉強が得意な生徒と苦手な生徒の二極化が顕著に結果として表れました。どの学力層も学習により積極的に取り組めるよう、授業改善を進めて参ります。

### 3. 生徒質問調査（勉強・生活等に関する調査）結果より

#### ～学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取り組み状況～

|   |              |              |             |
|---|--------------|--------------|-------------|
| (1) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか                         | 河原城<br>78.2% | 大阪府<br>78.0% | 全国<br>77.5% |
| (2) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか | 河原城<br>68.3% | 大阪府<br>63.7% | 全国<br>63.0% |
| (3) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか                           | 河原城<br>73.9% | 大阪府<br>76.6% | 全国<br>77.7% |
| (4) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか                 | 河原城<br>71.8% | 大阪府<br>69.6% | 全国<br>70.6% |
| (5) 1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか                              | 河原城<br>75.4% | 大阪府<br>77.5% | 全国<br>79.3% |
| (6) 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか                    | 河原城<br>85.9% | 大阪府<br>81.7% | 全国<br>84.7% |
| (7) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができますか                        | 河原城<br>73.2% | 大阪府<br>74.0% | 全国<br>73.4% |

※数値は肯定的に回答した割合

河原城中学校では、昨年度、『書く力』『話す力』の育成を重点に取り組んでいました。(1)(2)(4)(6)について、河原城中学校の数値が大阪府、全国の数値を上回っており、その成果と考えられます。(3)(5)(7)について、河原城中学校の数値が大阪府、全国の数値を下回っています。生徒が高い意欲を持って学習へ取り組めるよう、学校と家庭で連携して取り組んでいければと考えます。

## ～ICT の活用状況～

| (1) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか                              |        | 河原城   | 大阪府   | 全国    |
|--|--------|-------|-------|-------|
|  | 1日複数回  | 57.0% | 25.6% | 29.5% |
|  | 1日1回ほど | 23.2% | 20.4% | 23.7% |
|  | 週3回以上  | 15.5% | 21.6% | 23.3% |
|  | 週1回以上  | 2.8%  | 19.5% | 15.7% |
|  | 月1回以上  | 0.7%  | 9.0%  | 5.3%  |
|  | 月1回未満  | 0.7%  | 3.4%  | 2.0%  |
| (2) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する<br>(文字、コメントを書くなど) ことができると思いますか             | 河原城    | 大阪府   | 全国    |       |
|  | 81.7%  | 80.0% | 83.6% |       |
| (3) あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する(検索する<br>調べるなど) ことができると思いますか                      | 河原城    | 大阪府   | 全国    |       |
|  | 93.7%  | 89.7% | 91.5% |       |
| (4) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する<br>(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる) ができると思いますか | 河原城    | 大阪府   | 全国    |       |
|  | 66.9%  | 61.1% | 63.3% |       |
| (5) あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション<br>(発表のスライド) を作成することができると思いますか     | 河原城    | 大阪府   | 全国    |       |
|  | 76.8%  | 73.3% | 76.6% |       |

※(2)～(5)の数値は肯定的に回答した割合

ほぼ全ての質問において、河原城中学校の数値が、大阪府、全国の数値を上回っております。また、(1)について、授業でICT機器を活用する頻度が非常に多いことが表れております。今後も、学力向上のためにICT機器を有効的に使用できるよう、学校として努力してまいります。

## ～家庭学習習慣～

| (1) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） |          | 河原城   | 大阪府   | 全国    |
|--|----------|-------|-------|-------|
|  | 3時間以上    | 16.2% | 12.9% | 9.9%  |
|  | 2～3時間    | 19.0% | 22.4% | 20.9% |
|  | 1～2時間    | 24.6% | 27.0% | 30.8% |
|  | 30分～1時間  | 14.1% | 14.4% | 19.1% |
|  | 30分より少ない | 9.2%  | 11.4% | 11.3% |
|  | 全くしない    | 16.2% | 11.5% | 7.7%  |

| (2) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む） |          | 河原城   | 大阪府   | 全国    |
|--|----------|-------|-------|-------|
|  | 4時間以上    | 4.9%  | 5.5%  | 5.3%  |
|  | 3～4時間    | 5.6%  | 7.6%  | 8.5%  |
|  | 2～3時間    | 12.7% | 14.8% | 18.7% |
|  | 1～2時間    | 21.1% | 20.4% | 25.4% |
|  | 1時間より少ない | 20.4% | 24.1% | 24.1% |
|  | 全くしない    | 33.8% | 24.3% | 15.4% |

| (3) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） |          | 河原城   | 大阪府   | 全国    |
|--|----------|-------|-------|-------|
|  | 3時間以上    | 6.3%  | 3.3%  | 2.7%  |
|  | 2～3時間    | 3.5%  | 3.0%  | 3.2%  |
|  | 1～2時間    | 9.2%  | 7.0%  | 7.8%  |
|  | 30分～1時間  | 14.1% | 16.2% | 17.9% |
|  | 30分より少ない | 32.4% | 33.7% | 35.9% |
|  | 全く使っていない | 33.8% | 34.0% | 30.3% |

家庭学習について、全くしない生徒の割合が高い傾向にあります。また、学習時間が全体的に短い傾向にあります。家庭学習の必要性や方法等、学校から生徒へ発信し、改善をめざしてまいります。学力向上に向け、家庭学習の充実は必要不可欠ですので、ご家庭でもご指導のほどよろしくお願いします。

#### 4. 生徒質問調査の結果と学力の相関

～河原城中学校の生徒を、正答数で以下の4層に分けて分析し、層によって差が顕著であった項目～  
正答数順に並べたデータを人数で4等分し、(高い) A層～D層(低い)とした。

| (1) 自分には、よいところがあると思うですか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|-------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|                         | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|                         | 85.1% | 88.2% | 81.6% | 70.8% | 88.2% | 82.1% | 83.4% | 70.6% |

| (2) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|   | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|   | 81.4% | 76.5% | 78.9% | 64.6% | 82.4% | 82.2% | 69.5% | 66.7% |

| (3) 読書は好きですか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|              | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|              | 74.0% | 64.7% | 55.2% | 22.9% | 73.5% | 53.6% | 47.3% | 33.3% |

| (4) 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|   | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|   | 74.1% | 76.4% | 57.9% | 58.4% | 85.3% | 60.7% | 63.9% | 54.9% |

| (5) 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|   | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|   | 74.1% | 70.6% | 71.0% | 68.8% | 82.4% | 78.5% | 58.3% | 64.7% |

| (6) 1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|   | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|   | 81.4% | 70.5% | 81.6% | 50.0% | 85.3% | 85.7% | 61.1% | 51.0% |

| (7) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか | 国語    |       |       |       | 数学    |       |       |       |
|--|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|  | A層    | B層    | C層    | D層    | A層    | B層    | C層    | D層    |
|  | 62.9% | 82.3% | 73.7% | 62.5% | 82.4% | 78.6% | 63.9% | 58.8% |

※数値は肯定的に回答した割合

授業の内容をまとめ、発表することを行っている生徒の方が、正答率が高い傾向があります。河原城中学校では、今年度、『表現力』『読解力』が身につくよう取り組んでいます。また、課題やわからぬ問題に対して、自ら学ぼうとする姿勢がある生徒ほど、正答率が高い傾向にあります。特に顕著に結果が表れているのが読書についてです。学校でも、学習への意欲の向上や読書する習慣について生徒へ働きかけていきますので、ご家庭でもご指導のほどよろしくお願ひします。

## 5. まとめ ~保護者のみなさまへ~

### 【学力調査（教科に関する調査）について】

今年度、「知識・技能」の観点を問う問題は、正答率が大阪府平均に比較的近い傾向にありました  
が、「思考・判断・表現」の観点を問う問題の正答率に大きな課題が見られました。

今年度は「読解力、表現力を育成」の育成を、本校の重点目標として取り組みを進めているところ  
です。今後も取り組みを進めていくとともに、ふり返りと検証を行い、全教職員で改善に取り組んで  
いきたいと考えます。

### 【生徒質問調査（勉強・生活等に関する調査）について】

本校では昨年度、「書く力」「話す力」の育成を重点目標としておりました。そのために、考えを書  
いたり、発表する活動を取り入れ、授業改善を進めてきました。ICTについても、タブレットを有  
効的に使うために校内研修などで取り組んできました。その成果が一定表れたと考えます。

数値から家庭学習の時間や課題解決に向けた取り組みなど、学習に対する姿勢が確立されていな  
いことが読み取れます。学校でも、子どもたちの学習に対する意欲の向上のため、家庭学習の手引き  
の作成や学習通信の発行、集会での学習についての周知など取り組んでおります。各ご家庭におか  
れましても子どもたちの家庭学習が少しずつでも定着していくよう、お声がけいただきますようお  
願いいたします。

### 【生徒質問調査（勉強・生活等に関する調査）の結果と学力の相関について】

生徒質問調査の結果を正答率で分けて見た結果から、授業の内容をまとめたり、考えを発表する  
生徒の方が、正答率が高い傾向がありました。さらなる授業改善に向け、学校として取り組んでまい  
ります。

読書習慣や生活習慣、学習への取り組み方など、学校でも「学校だより」、「保健だより」、「アッピ  
home（生徒指導通信）」「学習通信」等で発信させていただきます。各ご家庭でもご指導のほどお願  
いいたします。

今後も学校は、保護者の皆さんと“一緒に”子どもたちの成長を見守っていけたらと考えます。

以上をもちまして、令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果報告とさせていただきます。  
今後とも連携方よろしくお願ひいたします。

校長 笹井 貴治